

自給飼料生産技術の改善支援 ～牧草刈取高の変更と草地リノベーション～

東部支所地域係 厚岸町

◇ 活動のねらい

厚岸町は、乳用牛1頭当たり耕地面積が0.69haであり、釧路管内で2番目に小さい。また、重点地区である若松・糸魚沢地域においても、平成29年度の調査では15戸中6戸(40%)が自分のほ場だけでは粗飼料が不足していた。さらに平成29年度より地域内で牛舎新築2戸、増築1戸と規模拡大が進み、飼養総頭数が9%増加(H29年8月1,525頭→H30年8月1,661頭)したため粗飼料の確保が課題となっている。

以上から、草地の生産性を高めることを目標に取り組んだ。

1 活動の経過

(1) 刈取高の適正化・・・チモシーの植生割合が高いものの分けつが少なく収量が低い農場に対し、分けつ茎を確保し、収量向上を図ることを目的に刈取高の改善を提案



1番草収穫前に刈取高8cm→11cmに変更(6月)



収穫後、取組農場と地域内の他の農場の刈取高とチモシーの再生状況を調査

(2) リノベーションの実施・・・草地更新がすぐにできない農場に対し、長年更新していない草地に、土壌の物理性を改善し新芽の発育促進を図るリノベーション(ルートマットの切断と耕盤層の破砕)施工を提案



昨年度の地域懇談会でリノベーションが話題に



農業者とほ場台帳を見ながら、取組を協議

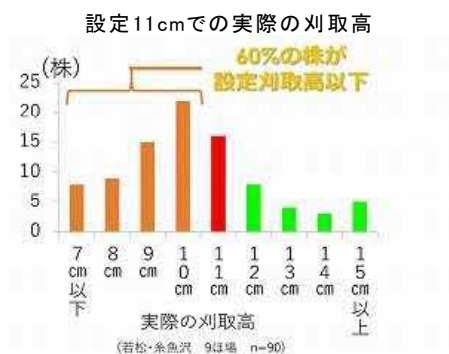


地元JAにある機械を活用し、リノベーションを実施

2 活動の成果

(1) 刈取高の適正化

1 番草の調査から、①刈取高は収穫機の設定よりも低い傾向にあること、②刈取高が10 cm を越える方が再生がよいことを確認し、③2 番草収穫前に結果を地域内に周知したところ、④刈取高に関心をもつ農家が現れた。加えて、⑤研修会で他地区へも周知した。



① 収穫機の設定を11cmで収穫しても、刈取高は6割が設定より低かった



② 刈取高が7cmよりも14cmの方が再生が良好であった



③ 2番草収穫開始前に刈取高を10cm以上にするよう重点地区内に発信

2番草を刈る時に注意してみるよ



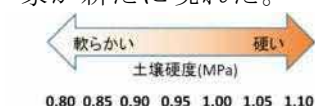
④ 2番草収穫時に、刈取高の設定を確認した農家もいた



⑤ 関係機関の研修会で、取組結果を発表し、町内・他地区へ波及

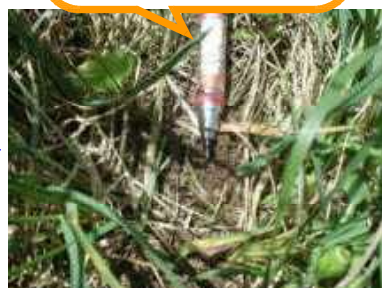
(2) リノベーションの実施

施工した草地の増収効果が見られ、地域懇談会で紹介したところ、施工に興味を持つ農家が新たに現れた。



土壌硬度は施工区の方が柔らかくなっている

新しい根、茎により増収が期待される



草地の切り込みから新芽が発芽

来年、うちでもリノベーションをやるかな



令和元年度地域懇談会で情報交換

3 今後の対応

刈取高の変更及びリノベーションを行ったほ場について、次年度も植生・収量調査を実施し、複数年での効果を検証していく。